

しもの診療所だより 3月号

みなさんこんにちは。今月は逆流性食道炎についてのお話です。加齢や食生活等の要因で食道と胃のつなぎめのしまりが悪くなると、胃酸が食道への逆流し、その酸が原因で食道粘膜に炎症をおこし逆流性食道炎となります。また、通常は、食道も、逆流してきた胃酸や食べ物を、胃へ押し戻そうとする働き（蠕動運動）がありますが、その働きが低下することも逆流性食道炎が起こる原因の一つといわれています。診断は主に問診と内視鏡検査によって行なわれます。症状は、胸やけの他にも様々な症状（例えば、胸痛、喉のつかえ、しつこい咳など）がおこりますので、気になる症状があれば相談してください。また、内視鏡検査は、(1)他の悪性疾患でないことを確認する、(2)実際の炎症の程度を確認する、ために行ないます。逆流性食道炎は、数日間お薬を飲めば、通常、ほとんどの人の自覚症状はなくなりますが、食道粘膜の炎症が治ったわけではありません。症状がなくなっても自己判断で服用を中止せず医師と相談してください。

